

### 3 綱封蔵 <国宝>

寺宝や経典を保管するための高床式の倉庫で、平安時代前期(9~10世紀頃)に建てられたと推定されています。

漆喰壁の倉が建物の両端にあり、中央が吹き放しになっていることが特徴です。この「双倉」と呼ばれる形式では正倉院が有名ですが、中央を吹き放しとする双倉は、これが唯一のものであります。

#### ここが見どころ!

吹き放し部分にハシゴを架けて倉に入出入りするので、両倉の扉は、中央の吹き放し部分に向けて開かれています。



### 4 東院鐘楼 <国宝>



袴腰付鐘楼と呼ばれる形式のもので、鎌倉時代前期(13世紀頃)に建てられたと推定されています。

下層の外側に「袴腰」というスカート状の板壁を設けていることが最大の特徴で、これが現存最古級のものとしてされています。

上層に吊られた奈良時代の梵鐘には、近世に法隆寺の隣に移転してきた中宮寺の名前が刻まれています。

### 5 西円堂 <国宝>



法隆寺境内の北西隅、西院伽藍を望む高台に建つ八角円堂です。創建は奈良時代と推定されますが、1050年に破損し、鎌倉時代の1250年に再建されました。

東院の夢殿と同じ平面八角形のお堂ですが、屋根頂部の宝珠や背面の土壁など、違いが多くあります。

### 6 聖霊院 <国宝>



#### ここが見どころ!

聖霊院には、正面や側面の蒔戸をはじめ、開き戸や引戸などがあり、まるで古建築の建具のカタログのようです。

聖徳太子像を本尊とする、聖徳太子信仰の中心となるお堂です。元は奈良時代に建てられた東室という僧房でしたが、平安時代末期に南端の3房分を仏堂に改築し、さらに鎌倉時代の1284年に全面的に建て直されました。

正面に設けられた檜皮葺の広い庇は、全体が吹き放しになっており、とても開放的です。

また、建物内にある厨子も注目すべきもので、我が国で現存最古の唐破風を見ることができます。





## 7 西院南大門 さいいんなんだいもん <国宝>



### ここが見どころ!

平面の間取りがほぼ同じ門に、奈良時代(8世紀)に建てられた東大門(国宝)があります。

平面が同じでも、屋根の形をはじめ、組物、軒の構造が全く異なります。ぜひ、見比べてみてください。

松並木の参道を抜けると、境内正面に構えているのが南大門です。室町時代の1438年頃に再建された法隆寺の正門です。

屋根は入母屋造で、中世以降にみられるようになる花肘木はなひじきや木鼻きばなに施された装飾的な彫刻も特徴のひとつです。



東大門(国宝)

## 8 北室院表門 きたむろいんおもてもん <重要文化財>

建立年代は定かではありませんが、室町時代前期(15世紀前半頃)に建てられたと推定されています。

屋根の両側面を唐破風とする「平唐門」という形式の門で、県内では最古級のものです。

### ここが見どころ!

以前は瓦葺きでしたが、解体修理の結果、元々は檜皮葺だったと判明し、当初の姿に復元されました。

現在も境内で日々続けられている建造物の修理では、様々な発見があります。修理事業にもぜひ注目してください。



## 9 西園院上土門 さいおんいんあげつちもん <重要文化財>

「上土門」とは、屋根に土をかまぼこ状に載せる特異な形式の門で、絵巻物に描かれることはありますが、現存する実物はこれと法輪寺西門のみという極めて珍しいものです。江戸時代前期(17世紀頃)の建立で、実際は屋根に土は葺かれず、檜皮葺となっています。

現在は法隆寺の寺務所の入口となり、毎日多くの人が無気なく通っている門ですが、実はこの門も世界遺産の構成資産のひとつなのです!

## 10 西院大垣 さいいんおおがき <重要文化財>



西院を囲む築地塀つじべいは、江戸時代初期から中期の17世紀代に修理されたものです。基礎は切石積みで、その上に「版築」という、土を1層ずつ突き固めて積み上げる技法で塀を築いています。古代の土木技術である「版築」が、江戸時代まで連続と継承されてきたことは本当に驚きです。

「法隆寺地域の仏教建造物」の紹介は、次号に続きます。

※ 本特集の写真は、いずれも法隆寺提供。



# もっと知りたい 世界遺産 〈第3回〉

## 「OUV」って何ですか？

“Outstanding Universal Value”とは、世界遺産になるために必須の条件であり、かつ世界遺産の根幹となる最も重要なものです。日本語では「顕著な普遍的価値」と翻訳されています。Outstandingは、韓国や中国では「卓越した」と訳されることもあります。

世界遺産委員会が定めた「作業指針」には、次のとおり定義されています。

顕著な普遍的価値とは、国家間の境界を超越し、人類全体にとって現代及び将来世代に共通した重要性をもつような、傑出した文化的な意義及び(又は)自然的な価値を意味する。従って、そのような遺産を恒久的に保護することは国際社会全体にとって最高水準の重要性を有する。

つまり「OUV」には、国家や民族・宗教といった枠組みにとらわれることなく、この地球上に住まう人類全体にとって、そして今現在を生きる私たちだけではなく、未来の世代にとっても、共感・共有できる重要な価値があるものであると、証明することが求められているのです。

### 第3回 飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群



## 「飛鳥・藤原」を世界遺産に！

### 「飛鳥・藤原」の構成資産候補紹介① 飛鳥の宮殿と関連遺跡

#### 飛鳥宮跡 Asuka Palace Site

飛鳥宮跡は、古代日本の国家が形づくられた舞台のひとつで、「飛鳥・藤原」の中核となるとても重要な宮殿遺跡です。



左：発掘された正殿跡 右：整備された石敷大井戸



1959年から60年間以上おこなってきた発掘調査の成果から、

- ◆1期 舒明天皇の「飛鳥岡本宮」  
じよめいてんのう あすか おかものみや
- ◆2期 皇極天皇の「飛鳥板蓋宮」  
こうぎょくてんのう あすかいたのりのみや
- ◆3期 齐明天皇の「後飛鳥岡本宮」と、  
天武天皇の「飛鳥浄御原宮」  
さいめいてんのう のちのあすか おかものみや  
てんむてんのう あすかきよみはらのみや

の3時期の変遷があったと推定されています。

内郭と呼ばれる中心部の区画や、正殿などの配置から、公的な儀礼・政務の空間と、天皇たちが居住する空間が一体となったものであることが分かってきました。

中心的な建物や井戸の周辺に石敷を多用していることが、後の宮殿にはみられない大きな特徴です。



## 飛鳥京跡苑池

## Garden Remains of Asuka-kyo Capital

飛鳥宮跡の北西に隣接して造営された大規模な宮廷庭園の遺跡です。1999年の発掘調査で発見されました。

石垣で護岸された南北2つの池があり、このうち南池には噴水状の石造物や中島などが造られ、中島には松が植えられていました。また、出土した種子や花粉から、池には蓮などの花が咲き、池の周りには梨などの果樹が植えられていたことが分かっています。

庭園の構造は朝鮮半島から強い影響を受けたものですが、その後の日本庭園の起源ともいえる、とても貴重な遺跡です。



発掘された南池の中島

## 飛鳥水落遺跡

## Asuka Mizuochi Site -Water Clock Tower-



整備された水落遺跡

『日本書紀』に660年に造られたと記録される我が国最古の水時計「漏刻台」の遺跡です。頑丈な建物の基礎や、水を流すための銅管などが発掘調査で確認されました。

時間を管理することで、人民を支配したことを示しており、我が国で役所や官僚制度が整備されるようになったことの物証となります。

「時守の打ち鳴す鼓数み見れば 時にはなりぬ逢はなくもあやし(巻11-2641)」という歌が『万葉集』にあり、漏刻台に置かれた太鼓や鐘の音で、飛鳥の人々に時を知らせていた様子を想像することができます。

## 酒船石遺跡

## Sakafuneishi Site

酒船石という謎の石造物が置かれた遺跡で、丘全体を石垣で囲んでいたことが発掘調査で確認されました。この石垣は、『日本書紀』に記された斉明天皇が656年に築かせたものと推定されています。

また、丘の北側の谷には、亀形石槽などからなる石敷の祭祀施設が設けられていました。

石造物の加工には海外から伝来した最新技術が用いられていますが、祭祀は古墳時代以来の水の祭祀の性格を受け継いだものと考えられます。

我が国の伝統的な文化と、外来の技術の融合を示す遺跡です。



発掘された亀形石槽